

課題名 現地検討会を通じた技術者育成について

関東森林管理局 治山課 丸山 寿隆

1 課題を取り上げた背景

治山事業における技術者不足は工事を施工する受注者事業者だけでなく、監督、検査を行う発注者としても大きな問題であり、治山技術者の減少と併せて、災害発生時の対応や ICT 技術の導入等の各種取り組みなど、多様化する事業内容に対応するため、技術者の確保と育成が急務となっています。

これまでも、局内研修などの場を通じ、技術者の育成に向けた取組を実施していますが、より実践的な方法で基礎的な治山業務の実務を遂行できる技術者の育成及び技術の継承を図る事を目的として、令和5年度より現地検討会を開催しています。

2 具体的な取組

令和5年度の現地検討会では、「山地災害調査アプリ」の操作方法を学ぶとともに、災害発生時に想定される資料作成、実際の荒廃溪流における治山ダム工の施設配置について検討と意見交換等を2箇所を実施し、併せて参加者にアンケートを実施しました。

令和6年度の現地検討会は、令和5年度に実施したアンケートを基に、実施回数や班編成、実習内容について改善を行い、基本的な測量業務の習得と、治山施設の配置検討、治山施設の基礎的な設計、製図作業などの内容を5箇所で開催しました。また同様に参加者にアンケートを実施しています。



図1 施設検討及び意見交換の状況

3 取組の結果

令和6年度に実施したアンケート結果では、参加者のレベルに合わせた内容の検討、現地までの移動時間が長く実習の時間が十分に取れなかったことなどの意見がありました。

一方で、測量から設計、製図までの一連作業が良い経験となった、少人数の班に一人ずつアドバイザーがついたことで質問がしやすかった、などの意見があったほか、回答者全員から「今後の業務に大いに役立つ内容だった」「ある程度、役立つ内容だった」の回答があり、現地検討会の効果が確認できる結果となりました。

このアンケートの意見もふまえ、令和7年度の現地検討会では、引き続き治山ダムの測量・設計を数班に分かれて実施することとし、移動時間も考慮の上、現地実習と設計、製図時間を多くとれるよう実施しました。参加者のレベルに合わせた内容については、今後の課題として検討する予定です。



図2 現地での測量実習の状況

4 まとめ

ここ数年で導入の進んだ ICT 技術をはじめ、現場作業の効率化や省力化に向けた新技術等については、非常に有用なツールですが、一方で、こうした新技術を取り扱う人材を育成していく観点からも、基礎的な技術力の向上は引き続き進めていく必要があります。

令和5年度より実施している現地検討会は、参加者へのアンケートにより、その有効性が確認できたことから、関東森林管理局治山課では、今後もこうした取組などを通じて、治山事業に係る高い技術力を持った人材の確保・育成と、地域のための治山事業を進めていく考えです。